

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	<p>1 開会</p> <p>あいさつ（福原総合政策部長）</p> <p>2 外部評価人紹介</p> <p>会議の説明・注意事項等</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 1事業目の外部評価 【対象事業：「ふるさと納税」（財政課）】</p>
真下評価人	<p>それでは、早速ですが所管課から事業について説明をしていただきたいと思います。</p> <p>①事業概要の説明</p> <p>—事業概要について説明（財政課長）—</p> <p>②質疑応答・議論</p>
真下評価人	<p>ありがとうございます。それではこれより質疑応答・論議に入ります。何か質問等がありましたら、挙手をさせていただくようお願いします。</p>
久保木評価人	<p>体験型の返礼品があるということを、実は私は知らなかったのですが、寄付額の3割以下に抑えるという通達がある中、体験型はどのように設定をしているのでしょうか。</p>
財政課長	<p>総務省から、寄附額に対して3割以内を返礼品の額とみなさいという指示がございました。具体的には、1万円の場合でしたら、消費税込みで物品を購入する金額を3,000円程度に抑える。さらに、送料や事務手数料等</p>

<p>久保木評価人</p>	<p>を含めても最大5割までというのが現在の総務省の基準でございます。例えばパンフレットのA-3コエドビール8本の原価は3,000円以内で収めております。</p> <p>体験型の場合、原価計算が難しいのかなと思い、質問させていただきました。</p>
<p>財政課長</p>	<p>例えば、体験型の山車引きですと、まず、衣装や着付けの費用が原価となっております。それから、昼食代や、川越に来ていただいたお土産を含め、寄附額の3割以内に収めるという形で提供させていただいております。また、山崎家別邸でも同じように、うなぎ料理の金額、それからお土産として和菓子の提供をさせていただき、その合計金額が寄附額の3割に収まるような工夫をさせていただいております。</p> <p>それ以外にも、シルバー人材センターで行っている館内の案内費用も含めた設定としております。</p>
<p>岡部評価人</p>	<p>体験型の返礼品は、現在も実施されているのでしょうか。</p>
<p>財政課長</p>	<p>現在もメニューとしては加えております。ただ、今年度は残念ながら川越まつりの中止などといったことがございますので、メニューには載せておりません。川越まつりの時期に合わせて、ホームページ等で体験型の返礼品の紹介をさせていただいております。</p>
<p>関根評価人</p>	<p>川越市の返礼品の希望者は結構いらっしゃるのでしょうか。希望があるものがコエドビールなどのお酒に限られているような感じもありますが、興味を示さない人にとっては、例えばビールが1万円でも2万円でも3万円でも選ばないと思いますし、先ほどコエドビールが東松山市に移転したという説明がありましたが、移転してもコエドビールが多いのであれば、他の返礼品を希望する方が少ないからではないかと思いました。</p> <p>寄付件数等が年々伸びてきているということですが、目標を立てて、そこに達しているのでしょうか。伸びてはきているけれども、目標には達していない状態なのでしょうか。</p> <p>また、委託を考えていらっしゃるということですが、委託もお金がかかることなので、委託にした場合、現在の返礼状況でも十分利益が上がるのかという点をお聞きしたいと思います。</p>
<p>財政課長</p>	<p>まず、返礼品につきましては、コエドビールの人気が非常に高いです。それに次いで日本酒とのセット、お菓子のセットが比較的多く出ております。人気があるものとしては、川越の場合はお酒、ビールが中心になって</p>

	<p>いると思います。</p> <p>業務委託につきましては、説明の際に申し上げましたとおり、ポータルサイトから連絡を受け、返礼品調達事業者に発注をかける。そして、寄附の証明書を出すという業務を市で行っております。ふるさと納税は1月から12月までに寄附していただいたものを翌年度の税額に反映させるものですので、どの年度でも11月から12月にかけて寄附がとて多くなります。ただ、所管しております財政課では、市の予算編成を行っており、この11月、12月が最も忙しい時期になり、担当で分担して当たってはいますが、年々増加しているふるさと納税の業務に対応すると、やはり効率としては落ちてきてしまうというところもございます。現在、市で行っている業務について、人件費を削減する代わりに、同程度のコストで業者に発注をして実際の事務を代行していただこうと考えております。ただ、現在はまだ実施には至っておりません。</p> <p>寄附件数等の目標につきまして、なかなか難しいところがございます、令和元年度には約4,000万円の寄附がございましたけれども、一方で川越市民がほかの自治体に寄附することによって、市税から4億4,000万円が失われています。川越市の弱点として考えておりますのが、返礼品の数が少ない、少し偏りが多いというところがございます。一般的に返礼品として人気があるのが肉、魚、野菜、お酒関係。あとは県内では、ゴルフクラブなど割と高額の商品が人気になります。基本的に地場という条件にはなりますが、返礼品の充実をもう少し図り、4,000万円から4億というのは、すぐには難しいとは思いますが、個人的にはまず5,000万円ぐらいを目指して、それから少しずつ1億というような形で目指していきたいと思っております。</p>
<p>関根評価人</p>	<p>この制度自体が、海や山のある市や県にとってはとても有利であり、ないところにとっては不利であるため、良い制度か悪い制度かというのはよく分からないところではありますが、川越は観光のまちとして、そういう面で何か攻めていくのが良いと思いました。うなぎなどがあるという事を知らなかったのもっと幅広く知られると良いと思えます。例えば観光とプラスしてウナギが食べられるなど、何かそういうのがないと良いと思いません。あとはアピールがどれくらいできているかということになるかと思いました。</p>
<p>小谷野評価人</p>	<p>寄附金の使い道のところでございますけれども、頂いた資料の寄附目的別件数・金額のところ、事業、基金、分野という形で項目が分かれています、この項目に設定された経緯を教えてくださいませんか。</p>
<p>財政課長</p>	<p>資料の3番目に寄附目的別件数・金額の欄がございます。こちらの事業</p>

	<p>の中には、川越まつり山車の修繕、文化財保存事業費補助金、川越市の文化財の写真撮影、無形民俗文化財映像記録作成事業の4つを取り上げさせていただきました。</p> <p>こちらを選定した理由でございますが、まず山車の修繕につきましては、川越まつりは、川越で一番大きな祭りであり、川越の名を広めている大きな要因の一つとして考えております。ただ、財政的に言いますと、こういった事業に対してお金を十分に配当するのがなかなか難しいというところがございますので、川越まつりに関心を持っていただくと同時に、修繕のための費用に充てるために、こういった寄附を募るのはどうだろうということで、選定しております。</p> <p>それ以外の文化財の保護、あるいは無形民俗文化財につきましては、これは非常に地味な事業ではありますけれども、地域のお祭りなどを後世に残していくためにはお金がやはり必要となりますが、国や県からはなかなかお金が入ってこない、市が単独で行っていくしかない事業がほとんどでございますので、こういったところにお金を向ける裁量の幅がどうしても少ない中で、財源を生み出すという考え方のもとで取り上げております。他の自治体では、例えば犬、猫を薬殺しないための、新たな飼い主を探すための経費や、北海道ですと、幼稚園バスを購入するための費用の募集など、いろいろやり方はあるかと思えます。</p>
小谷野評価人	<p>こちらの事業に関しては、その時々で見直しをされて、その時々で寄附金の使い道というのを決めているということでしょうか。</p>
財政課長	<p>基本的には毎年見直して中身を変えていって良いものだと思います。ただ、なかなかそうしたアイデアが乏しいところも現状としてはございます。</p>
小谷野評価人	<p>もう一点質問ですが、今回基金で4項目を上げられていますが、基金に入ってどのように使われているかというのは追いかけているのでしょうか。</p>
財政課長	<p>例えば、基金の3番目に大学奨学基金というのがございます。こちらはある篤志家の方の発案によりまして、この基金が創設された経緯がありますが、こちらにつきましてはいわゆる入学金、それから月々の授業料、これの全額ではございませんけれども、相当額を頂いた寄附、それと一般の皆さんから頂いた寄附をもとに、奨学金としてお渡しをさせていただいております。それ以外、文化芸術の振興基金ですとか、いわゆる観光基金でも、例えば観光であれば、散水栓の設置ですとか安全対策のために頂いたお金を使わせていただいております。</p>

小谷野評価人	<p>そういった使い道についての資料というのはいどこかに掲載されるのでしょうか。</p>
財政課担当	<p>寄附別の件数、毎年1年間受け入れた金額等々についてまとめております。分野別に記載してある「子ども・子育てに関すること」などは、どうしても漠然としておりますので、頂いた寄附金額をまとめたものを併せて、どのように使ったのかを、毎年翌年の9月末、10月頭あたりに、ホームページで公表をしております。</p>
池田評価人	<p>ふるさと納税は市民の方々にとって、広報する重要さ、チャンスになり得る存在なんだろうと期待をしているのですが、ほとんどの方のイメージは安く何かを買う、寄附税制という堅苦しい言葉をあえて使わなかったのが上手だったと、巷では言われていますけれども、かえって本質が分からなくなってしまっているというところも現実としては恐らくあると思いますし、担当課さんも、もしかしたらそう思っているかもしれないなと思います。そうすると、その辺のところをうまくコントロールする方法を今後模索されるものと思います。</p> <p>そういった視点で、幾つか質問をさせていただきたいのですが、まず、寄附をしてくださった総額と、先ほどおっしゃられた市民の方が他の自治体に寄附されることによって住民税の控除が行われる流出額で本来は考えられるべきものというふうに思っています。つまり、非常に単純な形にすると、流出額と入ってきた金額との差額、こういう点から見て、川越市では、例えば近隣市町村と比べて財政上うまくいっていると言えるのか。それとも、必ずしも成功しているとは言えないのか、この点をまず教えていただいてもよろしいでしょうか。</p>
財政課長	<p>認識としては、やはり4,000万円の収入に対して4億円の流出があるというのは非常に厳しいと思っています。失われた差額を、例えば4億円というふうに仮定した場合には、それが翌年度の普通交付税という、これは地方交付税制度という一つの財源調整フレームにおいて、失われた市税の75%が後年度に返ってくる可能性があるという仕組みがあります。ただ、なかなかこれが見えにくい仕組みで、同一年度でそれが来るわけではございませんので、そういう意味では、流出額に近い寄附額を確保するというのが良いと思っています。流出額が多くなるとまちづくりのためのお金が失われてしまう要因だと思っています。</p>
池田評価人	<p>それを伺ったのは、お配りいただいた事業評価シートの中の「7.評価」の有効性で、A、B、C、Dの中ではBとなっており、ご説明では必要な財源の確保に貢献しているという文言があったものですから、もちろん意</p>

	<p>図は分かりますけれども、少し説明が加えられていないと分かりにくいと思いました。所管課でもお考えだと思いますが、単純に寄附面だけで言えば、もちろん入ってきていますのでありがたいのですけれども、実はそれだけを見ているのは必ずしも適切でないということ、わかりやすく教えていただけると良いのではないかと思います。</p> <p>それと、もう一点関係したことがあるのですが、私もそうでしたが、多くの市民の方が他の自治体に寄附するということは、川越市の財源が減るということ、これを十分に認識していないケースも少しあるのではないかと思います。川越の行政に実は満足してなくて、ほかの自治体をむしろ応援した方が良いと思っているケースもあるとは思いますが、しかし何人か身近な方に伺った限りでは、自分が寄附したことによって、住んでいる町の住民税が減ってしまう、そのマイナス効果もあるということ、これを認識していない場合もあるようです。したがって、ふるさと納税といっても市の財政にとってはこういう面もあるという市からのアナウンス、川越市のことを考えたほうが良いなと多くの方が思ってくれるようなアクションがあると良いと思っています。</p> <p>ふるさと納税に絡めて市の財政について考えてもらうようなものは現状あるのでしょうか。あるいは今後行う予定はあるのでしょうか。</p>
<p>財政課長</p>	<p>先ほど申し上げた普通交付税の依存度が高い地方の団体は、ふるさと納税により新たな財源が確保されるという良い面もございます。特に北海道、九州などの小さな自治体では普通交付税にどうしても依存せざるを得ませんが、他からお金が来るということは、新たなまちづくりの財源を確保することができるという見方もあります。</p> <p>ただ、特に23区の自治体あるいは我々もそうですけれども、どうしても流出額が多くなりますと、今後いろいろと修繕をしていかなければならない施設に充てるお金がなくなってしまうというアナウンスはしたほうが良いとは思っています。現に、23区の区長からはそういう意見も出ていたと思います。ただ、なかなか寄附しないしてほしいというのは市民に対するメッセージとして難しいというところがありますので、まずは、寄附はこういう形でお金が入ってくる、一方で出ていくお金のことについても併せて、広報として財政事情公表などもありますので、そういった機会を捉えて、ホームページ等を活用し、お知らせすることも一つの方策と考えております。</p>
<p>池田評価人</p>	<p>与えられた中でやれることの一つとして、返礼品のバラエティやクオリティを上げることにより、川越市に寄附金が入ってくるように仕向けることが必要と思いますが、返礼品はどのように選んでいращやるのか。選ぶ過程を簡単に結構ですので教えていただければと思います。</p>

<p>財政課長</p>	<p>パンフレットをご覧いただくと、川越とつながりのある品物、例えばA-1であれば菓子屋横丁のお菓子、そういったところに対しても目を向けてほしいと思っております。川越であれば、例えば川越唐棧というのがありますので、そういった部分を工芸品セットという形でお見せしたり、川越といえはこういうものがありますよというところを選んでおります。</p> <p>ただ、職員も全てのものを知っているわけではありませんので、農業、工業、商業、あるいは観光など、いろんなところから本当はアイデアをいただいたほうが良いのではないかなというようなことも思っています。新しく開発したものを応援したらどうかということもあります。川越では、時期限定でマンゴーを返礼品に加えて提供させていただいているというものもございます。返礼品というのは、一般的に考えて川越らしさが出ている品物を、という思いなのですけれども、それだけでは充実を図るのが十分ではないのかなというようにも感じてはおります。</p>
<p>池田評価人</p>	<p>川越市が選ばれるといいなと期待しているという前提でお話しさせていただきたいのは、返礼品に対してどれだけ費用がかかっているか、とりわけ生産者をお願いしてそこから仕入れている、納入してもらうときの費用がどれぐらいになるかということも含めて、川越市は比較的、全体的には抑えているように見えます。費用の比率が表に出ていたと思いますが、20%ほどというのはあまり高く費用をかけずにふるさと納税の品物を揃えることができたということで、そういう意味では非常に良い選択という面もありますが、同時に、もしそれを増やすことをしたら、ふるさと納税の品を選ぶ人たちからすると、還元率と言われてはいますが、かなりのケースで、お得感がどれだけあるかということを見ているところがあると思います。この競争に乗るべきかどうかは非常に微妙なところではありますが、例えば戦略的に、あるものに関しては非常にお得感を出して、まず川越でこういうことをやっているということアピールする戦略的な商品を出す。あるいは、まさにGo To Travelというものもそうでしたけれども、日常にお手頃価格のものがうまくいっているケースもあれば、高額商品など、普通だったら手に入れることができないようなものを、この際だから頼んでみるというような商品を提示していくというやり方もあるだろうと思います。</p> <p>そういったことをしていく考えはあるのか、それとも、いろいろ事情があつて難しいか、そのあたりを最後にお伺いします。</p>
<p>財政課長</p>	<p>現在、パンフレットに載っております品物というのは、ほぼ皆さんが調達する価格で我々は調達しております。つまり、特別な価格で何かを企画していただくとすると、当然そのリスクを事業者側が負わないといけない</p>

	<p>というところがあります。ただ、現実には事業者の中でも、自分の利益や調達コストを抑えることによって、アピールするということもあるかもしれません。</p> <p>我々は、産業界とのお付き合いが日常的にある部署ではございませんが、産業観光部といった部署との連携を強めて、川越の知名度の向上あるいは自分の品物のPRも含めて品物を出していただけるように力を入れていきたいと思っております。</p>
事務局	<p>ここで換気のための5分間休憩を取らせていただきたいと思います。</p>
<p>－ 休 憩 －</p>	
真下評価人	<p>それでは引き続き、質疑応答を続けたいと思います。 何か質問等がありましたら、挙手をしていただくようお願いします。</p>
関根評価人	<p>この返礼品というのは事業者から希望を取るのではなく、川越市で決めてお願いするものなのでしょうか。</p>
財政課担当	<p>返礼品の拡充については、現状としましては我々のほうからお声がけをしていたケースもありますが、事業者さん側からうちでこういう商品を取り扱っているの、返礼品としてどうでしょうというようなお話を頂いたりする中で、少しずつ拡充をしている状況でございます。</p>
関根評価人	<p>では、一斉に希望する方はいませんかと発するのではなく、最初は市側で、検討してお願いをされていて、それに気づいた方々が、うちもどうですかという形でお話があるということですか。</p>
財政課担当	<p>本市としましては、課題として返礼品の数が少ないという認識は持っておりますので、市内の事業者さんにお声をかけさせていただいて返礼品を募る、そういった取組をする必要があるという認識を現状としては持っております。ただ、今後実施しようと考えているところですので、現状としてはそういった制度は採用しておりません。川越市とつながりがあるものを返礼品として扱うことで川越市のPRになるかという視点で、市の方で選んでいるというところがありますので、今後、返礼品を募るといった取組を進めていきたいと考えてはおります。</p>

関根評価人	川越市のほうで指定しているということには、少し驚きました。これだけの品があるのに、何社かに数えられそうだなと感じました。
財政課長	補足をしますと、先ほど平成 27 年 10 月 17 日から返礼品を本格的にスタートしたと申しあげましたけれども、今まではDVDとか、あるいは入館券しかなかったことから、ゼロからスタートする際に、市の産業観光館で取り扱っていた、ビールやお菓子、工芸品などを幾つか選べないか協力をお願いしました。また、現在では行っておりませんが、市内にある百貨店にもご協力を頂いておりました。化粧品や野菜など、逆に提案をしていただき、庁内で、将来的にも面白そうなものや、あるいは市内にこういう工場があるのであればアピールしようといったことを内部で検討しまして、現在の返礼品の状態になったというところもございます。
久保木評価人	時代をみると、私は体験型を充実するべきではないかと思っております。また、市民が自分の市町村に寄附をすることに対して、返礼品があるかどうかは、どんな比率かお分かりになりますでしょうか。
財政課長	総務省の通知によって、二重のお得感を出してはいけないということで、現在は川越市民の方が川越市に寄附した場合は、税額控除は受けられますが、返礼品につきましては平成 29 年度をもちまして廃止をしております。
久保木評価人	それは全国的にそういうことを守らなければいけないというルールになっているのでしょうか。
財政課長	ある意味、利益の提供に当たるという考え方が示されておりますので、基本的には川越市も含めて、その条件は守らなければならないというように、全国の自治体でも認識をしていると思います。
岡部評価人	寄附をしている件数と金額については記載されていますが、具体的な、例えば何歳ぐらいの男性であるか女性であるかというような細かいデータは把握されているのでしょうか。
財政課長	年齢層については、把握はしておりませんが、寄附の申請書類を見ますと、神奈川県や東京都などの関東圏からの寄附は多いと思います。意外にも関西圏もそれなりに件数がございます。九州地方からなども、どういう経緯で選んでいただいたかは分かりませんが、寄附をしていただいているケースもございます。ただ、関東エリアですと、いろいろなニュースなどで取り上げられるケースが多く、例えば、川越まつりで知ってもらったり、あるいは相互直通運転を今、横浜と行っておりますので、そういったとこ

真下評価人	<p>ろも知名度を上げる一つの要因というようには考えております。</p> <p>現状で、方向性として民間委託も含めてと記載されていますけれども、現時点では民間委託を行っていないという理解でよろしいでしょうか。それとも一部は行っているということでしょうか。</p>
財政課長	<p>現在、民間事業者をお願いしている内容としましては、民間が運営しているポータルサイトに我々の情報を載せてもらっておりまして、それに対する利用料として対価を支払っております。あとは、返礼品の注文があった場合に、その梱包、発送の業務は民間事業者をお願いしております。ただ、その発注業務は現在市のほうで行っている状況です。</p>
真下評価人	<p>基本的には、現在市が行っている部分について民間にお任せして、委託する部分を増やしていきたいという理解でよろしいでしょうか。</p>
財政課長	<p>そのとおりです。</p>
真下評価人	<p>寄附金収入より税収減の方が大きい4億円の出超というお話がありましたが、これはどの自治体も似たような、特に都市部の自治体は似たようなものだと思います。横浜市のように100億円単位となると少し大きすぎますが、やはり4億円出るというのは大きいと思いますので、ここをどうするかというところが一つあるように思います。</p> <p>既に議論がいろいろ出ていますが、また所管課さんからも説明がありましたように、どうしても食品が多いです。これは要するに頼みやすいからという気がしています。もちろん、色々な自治体を見てみますと面白いものが幾つかあります。先ほど久保木評価人からは体験型という話もありましたけれども、例えば鶴ヶ島ですとNゲージ。そういう市内の工業製品を使う。多賀城市のように、ソニー製品を出すと怒られる可能性が高いので、そういうところはさすがに難しとは思いますが、川越市でもミニシャーペンシルという返礼品があるようですけれども、必ずしも食品にこだわることなく、様々な業態のものを選ぶべきだと思っております。そこで質問なのですが、先ほどもお話がありましたけれども、こういった返礼品を選定するに当たっては、基本的には財政課において行っているということでしょうか。</p>
財政課長	<p>庁内から返礼品のいろいろアイデアを募っていますがなかなか出てこない実態があります。また、事業者のほうから、財政課に売り込みもあります。そういったものを庁内の検討組織の中で検討し、川越の特産品としてなり得るか、特に令和元年度からの総務省からの通知ですと、生産あるい</p>

<p>真下評価人</p>	<p>は加工している場所の制約がありますので、そういった要件にもちゃんと適合しているか。安定的に供給していただけるかどうか、そういう視点も加えながら選定をしております。</p> <p>川越市というのは、観光都市、農業都市、また産業都市でもあると思っておりますので、様々な部署と連携しながら、特にこの場合、産業観光ということが強くなっていくと思いますけれども、そういったところと情報交換をしながら行っていくというのも手ではないかと考えました。</p> <p>業務の効率化という視点と、出超を減らすというところ、この2点に分けて考え整理した上で今後進めていかないと、少し混乱すると思いました。事務事業評価シートの中で表現するのは難しいということがあったかもしれませんけれども、これだけを拝見すると民間委託を行うというようにしか読めなかったものですから、それだけではなく、現在出超がこれぐらいあるのだということを提示して、川越市としては業務の効率化を図ると同時に、この出超をどうにかしなくてはならない。そしてふるさと納税を市政に役立てていかなければならない。そのような趣旨で述べたほうが良かったと思いました。</p> <p>③評価結果発表</p>
<p>真下評価人</p>	<p>それでは、各評価人から、まずそれぞれの点数を仰っていただいた上で、ご意見をいただければと思います。</p>
<p>小谷野評価人</p>	<p>時代適合性4点、行政の関与の妥当性5点、効率性3点、実効性4点、方針妥当性4点、合計20点です。</p> <p>今回、この事業を行うことで、ある程度成果を上げていると思っております。ただ、返礼品等を含めて、今後検討をしていく必要があると思っておりますが、事業の推進自体は社会のニーズに適合していると感じております。計画的な財政運営、財源確保においては、今後の事業をどうしていくか行政として実施すべきで、また、効率性においては民間委託等もあると思っておりますが、コスト面のほうで効果が見られるかどうか判断しにくいところがありましたので、今後しっかりと検討を行っていくべきと考え採点させていただきました。</p>
<p>久保木評価人</p>	<p>時代適合性5点、行政の関与の妥当性2点、効率性3点、実効性2点、方針妥当性3点、合計15点です。</p> <p>評価はとても悩みました。例えば、時代適合性はやらざるを得ないことだと思いますけれども、行政が関与することについては、税は行政以外徴</p>

取することができない、民間委託をする必要があるかという観点で考えると、市自ら行う必要性があるかと問われるとないと答えたので、2点としました。私は、行政が直接関与する必要は、返礼品の物販などには必要ないと思っていますので、あえて結果が低くなってしまったというところがあります。

効率性に関して、最小の経費で最大の効果を上げられているかということについては、今も行政がやっているのだから、経費がかかっているのではないかと逆に思いました。

実効性については、本来納税を増やしたいのに4億出ていっていることをどう評価するか。何もしなければ出ていくだけで4,000万円も入っていないが、4,000万円入ってきていると言われたら、効果があったとも評価できるので、とても迷いましたが4点としました。

そして方針妥当性は、迷いましたが3点としました。今思っていることは、市民のアイデアで、川越が大好きだから川越をもっと知ってもらいたいという感じで、アイデア募集みたいな、返礼品のアイデア会議みたいなものを行ってみるとすごく盛り上がると思います。また、市民も、川越はこういう状況でお金が出てしまうということを知ること大切かと思えます。

それから、私の思ったアイデアを4つお話します。

お孫さんとか、私も自分の子供にお稚児さんの格好をさせたかったのですけれども、町内に住んでいないとお稚児さんの格好ができないので、あの格好をさせたいという人が寄附をして体験をする。おじいちゃん、おばあちゃんが市外に住んでいたら、おじいちゃん、おばあちゃんが寄附をした場合には、自分の孫にさせてあげられるというものがあると良いかなと思いました。

また、一生に一度、霞ヶ関カンツリーでゴルフがしたいという人もいるのではないかと思います。

今、時代はサブスク、定期的に物が入ってくるというサブスクリプション方式が流行っていますので、お酒が一遍に5本届くよりは毎月1本違う種類が届くほうが絶対にニーズがあると思います。お米も、毎月買うものなので、毎月お米が定期的に入ってくるような発送の仕方考えたらよいのではないかと思います。

最後に、ちふれ化粧品が川越にあります。返礼品の中にちふれ化粧品が入っていないのは、女性として少し残念と思いました。女子サッカーも持っていらっしゃるので、そこに寄附できると思います。

岡部評価人

時代適合性5点、行政の関与の妥当性4点、効率性3点、実効性3点、方針妥当性4点、合計19点です。

ふるさと納税は、実施していかなければならないでしょうし、実施して

いくべきものであろうと思います。また、返礼品の選定ですとか事務的な効率性というのは、庁内でやられていても、予算編成に時期が重なってしまうと、モチベーションなどにもつながってくると思いますので、これに関しては外部委託をしても良いのではないかと感じました。

また、返礼品の選定についても、たくさんの良いものが川越にありますので、庁内でやるのであれば、部署横断的な取組ですとか、ワークショップなど、そういった外部の人を含めて考えていくのも良いのではないかなと思います。

ふるさと納税のお金のことですが、4億円が出ていくというと金額が大きいののでインパクトはあると思うのですが、目的の1つは、来訪のきっかけづくりということで、広告的な効果、役割というところかというと、4億円を広告費として出していくように感じております。やはり観光都市ということもあるので、このふるさと納税を、例えば、体験型にして川越に来てもらい、その体験だけで終わるのではなく、浴衣を着て、それにプラスして写真撮影をできるようにするなど考えられると思います。また、浴衣を着ているから、他のところも歩いてみたいなというふうに思えると思います。そう考えますと、確かにふるさと納税の税額としてはそれほど入ってこないかもしれませんが、そこで川越を知って、また来たいなというふうに次につながっていけることをすれば、全体としては効果があるのではないかと感じます。

関根評価人

時代適合性5点、行政の関与の妥当性4点、効率性3点、実効性3点、方針妥当性4点、合計19点です。

時代適合性は、やらなくてはならないことなので5点、行政の関与についても税のことなので、やはりやらなければならないことと考え4点、効率性と実効性は、最大の効果が上げられているか、本来の目的に合致した成果を上げているかという点で、3点にしました。方針妥当性については、事務事業評価シートのところでも総合評価がCということでしたので、やはり問題点ということを考えていच्छやるのは同じかなと思い4点にしました。

皆さんから出ているように、やはり返礼品の見直しも必要かと思います。寄附額が変わっても中身が一緒なので、1万円で要らないものは3,000円でも要らないという感じがしました。これはビジネスなので、どう改善していったほうが良いのかというのは、お金が絡むことなので、役所の方々の仕事よりは専門家の方を招いて何か改善をしていかないと何の変化もないという感じはしました。ただ、今お話を聞いていて稚児行列がありましたら、私の孫にもやらせたいと思いました。氷川神社で稚児行列をしたときに、自分の娘もさせてもらえて、もしおばあちゃんだったらお金を払ってでも、こんな機会はないので、やらせたいなと思いました。浴衣の写真

池田評価人

についても、若い方だったらカップルで浴衣着て写真を撮ったら、写真屋など物を売っているだけではない方々にもお金が入ってきますし、すてきなと思えるものがあるのだと思っております。

自分なりに考えたのが、サツマイモ掘りつきサツマイモや、稲刈りつきお米、それから川越のお土産屋を見て回ったときに使える買物券など、何かそういう観光や川越をもっとアピールできるやり方があるのではないかと思います。

時代適合性5点、行政の関与の妥当性5点、効率性3点、実効性4点、方針妥当性4点、合計21点です。

これは、とても難しい制度と言いますか、位置づけが難しい制度で、最初のほうにおっしゃられたとおり、寄附で入ってくる方に光が当たりがちですが、同時に流出していく分にはなかなか光が当たらない、ただ財政という点からすると実は重要な問題だと思います。その間を何とかしなければいけないということで、担当課は苦勞されているなど実感しました。

それから、この問題が難しいのは、その根本的な面と、それから本来の目的をどこに置くかによって、対処の仕方が変わってくる、バランスよくというのが結局答えだとは思いますが、こういう制度をどの人に注目しながら設計していくのかということが難しいです。普通は、市の職員の方であれば川越市民に向きながら制度設計をしていけば良いとなりますが、今回の場合は寄附税制、川越市民の方に寄附をしてもらうというやり方も本来はあるはずですが、この制度はあまりその発想はないと思います。本来は川越市民のはずなのに、どちらに焦点が行きがちかという、市を支えてくれるような市外の人ということだと思います。しかし、市を支えるといっても、市の仕事をイメージできて、観光が中心であるとか、こういう産業があるということはある程度分かっている人が支えているケースも一つありますし、返礼品の注目度に応じてお得感を重視しながら、結果的に川越に寄附をしていただけるというケースもあります。それぞれが重要で、その間のバランスの取り方がとても難しいです。川越市民が重要なのは当然のことですが、それ以外のところにも力を注がなければいけないという、非常に難しい制度だと思います。

返礼品に関しては、いろいろ他の評価人の方々からご提案がありましたが、もう少し変える余地があると感じます。選定のやり方の仕組みも変えられるでしょうし、それから調達費用ももう少しコントロールしても良いのではないかと思います。低いほうが良いに決まっていますが、しかし実績を上げるという点からすると、持ち出しが若干増えてもそれを増やすというやり方もあり得るかもしれないと思いますので、まだ動かす余地はありそうだと思います。

それから最後に、寄附税制ですからお金の問題が一番重要になってくる

真下評価人

ことも確かですけれども、そもそも地方をうまく知ってもらうための、あるいはそれをアナウンスするための制度であるということも、総務省的に一応表に出しているところがございます。川越をはじめとした首都圏の地域にとってはお金の面ではなかなか厳しい面がある制度ですが、同時に、それをきっかけに、こういう厳しい状態になりそうということを川越市民の方に知ってもらうという根本的な面も意外に重要で、それも、成果の一つあるいは目的の一つに入れても良いのではないかと思います。それをきっかけに、自分たちの住んでいる町の課題、財政論を含めた課題が見えてくれば、それは大きな効果ということが言えるかもしれないと思いました。

時代適合性4点、行政の関与の妥当性3点、効率性2点、実効性3点、方針妥当性5点、合計17点です。

時代適合性、行政の関与の妥当性については、先ほどから出ているように正直迷うところですが、正直、これは項目が少しくまぐマッチしなかったかなという気がしないでもないですが、いずれにしろ民間への業務委託の可能性を探ってほしいということで、この点数にしてあります。それから効率性2点、やはり4億の出超というのは少し大きいかないと考えました。実効性3点、先ほどの池田評価人のお話ではありませんけれども、結局ふるさと納税の趣旨というものがきちんと貫徹されているのか、理解されているのかというところで3点とさせていただきます。方針妥当性が5点としたのは、このシートの中に民間への業務委託ということで、その方向性はしっかりと示されているので、この点数にしました。

既に今まで、ほかの評価人からもお話が出ていますけれども、また、私が先ほどの質問の中で少しお話ししたと思いますけれども、基本的にはやはり返礼品に注目されがちなお話であるとは思いますが、ただ、実は返礼品にこだわる必要はないのかなという考え方もあると思います。既にご承知だと思いますけれども、返礼品を出していない所沢市や吹田市が川越市よりも多くの寄附を集めているという現実もあるわけです。そういったところから考えると、返礼品競争になってしまうというのも考えものだと思いますし、これはまさに、川越市としてどの方向に進んでいくのか財政課さんを中心に考えていくべきポイントではないかと思います。個人的な印象ですけれども、ふるさと納税は、どうしても高額所得者向けのところもありますので、もし寄附を集めるということであれば、先ほど関根評価人からもありましたけれども、専門家の方を招いて、そういった高額所得者に受けるような商品、あるいはマニアに受けるようなものを選ぶということが必要になると思います。

ただ、先ほど申し上げたとおり、そもそも返礼品は必要なのだろうか。そういった視点も含めて今後の方向性を考えていかなければというふうに思います。

真下評価人	<p>合計点は 111 点となりました。判定結果はB、評価としては、事業の在り方は概ね妥当であるという判定となりました。ぜひご参考にしていただき、今後の事業の展開にご活用いただければと思います。</p> <p style="text-align: center;">－ 休憩 －</p> <p>(2) 2 事業目の外部評価 【対象事業：「在宅要介護高齢者等紙おむつ給付」（高齢者いきがい課）】</p>
真下評価人	<p>それでは、本日の 2 事業目です。まずは所管課から事業概要の説明を 15 分程度でお願いします。</p> <p>①事業概要の説明</p> <p>－事業概要について説明（高齢者いきがい課長）－</p> <p>②質疑応答・議論</p>
真下評価人	<p>ありがとうございます。それではこれより質疑応答・論議に入ります。何か質問等がありましたら、挙手をしていただくようお願いします。</p>
小谷野評価人	<p>1つ確認をさせていただければと思います。 今回、この制度を利用している方について、条件をクリアされている方はどのくらいの割合なのか教えていただけますでしょうか。</p>
高齢者いきがい課担当	<p>高齢者人口につきましては、令和元年度は 9 万 4,000 人の方が 65 歳以上の高齢者の方となっております、対象者数、実人数ですが 1,887 名と、約 2%の方が利用をしております。</p>
小谷野評価人	<p>その点を踏まえまして、予算の割合としてどのくらい使われているのか。ちょっと余ってしまっているのか、それとも足りないのかというところを含めて教えていただけますでしょうか。</p>
高齢者いきがい課担当	<p>予算額につきましては、ほとんど、9割以上執行している状況となっております。</p>

<p>久保木評価人</p>	<p>おります。</p> <p>この業者さんというか、利用者さんが選べるおむつの種類のパンフレットをホームページで拝見しました。仕事柄、高齢者と関わる機会が多くて、他自治体で感じたことですが、やはり、おむつの種類が少なくて自分の好きなおむつが選べないとか、巻きおむつは良いけれどもパンツは駄目だとか、結構自治体によっていろいろ制限がありますが、川越のパンフレットを拝見すると、大手メーカーは駄目というところも多い中、大手メーカーもオーケーで、すごく充実したパンフレットだったので驚きました。利用されている方は本当に助かっていると思いました。</p> <p>そして、ここには在宅高齢者向けということになっていますが、給付条件を見ると療育の方とか障害者の方も対象の事業だと思います。そういう面から言うと、おむつの種類がSからしかなかったため、中高生でまだ体が小さいけれどもおむつが欲しいという子は、SSサイズが欲しいため、そのあたりを充実してあげるといいのかなと思いました。</p> <p>いい制度だからこそ、なくしてほしくないと思いますが、やはり財源がとてつもないと思うので、世帯所得か何か制限をつける代わりに1ヶ月当たりの上限を500円上乗せして、5,500円にすることや、皆さんからの負担をいただくという方法もあると思いました。</p>
<p>関根評価人</p>	<p>今、65歳以上の方が9万4,000人。それで、今必要とされている方が1,887人。実質はもっといるのかと思います。必要としていてもこういう制度を知らない方や、申請をできないという方も実際は結構おり、そういう方々のほうが大変な思いをしていると思います。延べ人数というのはこの1,887人の方が12ヶ月使うということでしょうか。知っている人は得をするというわけではないですが、恩恵にあずかれますが、知らない方は結局、自分で苦しみながら何とかしているということもあるので、事業のPRをするなどして何とかしていかないといけないと思いました。とても良い制度だと思うので、所得制限をして、本当に困っている方や家族にお金を減らすことなくできたら良いと思いました。</p> <p>もし分かるようでしたら、1枚のパンツおむつは、大体幾らぐらいするのですか。</p>
<p>高齢者いきがい課担当</p>	<p>まず、この紙おむつ給付事業の市民への周知につきましては、一般的に広報紙、ホームページのほか、市の窓口にご相談に来たときにその都度、行っております。また、地域、ケアマネジャーを通して積極的に周知をお願いしております。</p> <p>アウターにつきましては、概算ですが、1枚としては70円前後という価格です。尿取りパッド等につきましては、1つ当たり30円になりますので、</p>

<p>関根評価人</p>	<p>それがパッケージという形になります。商品1パックあたり1,000円から3,000円の価格帯も結構パンフレットの中にはあります。</p>
<p>高齢者いきがい課担当</p>	<p>5,000円だと大体どれくらい使用できますか。</p>
<p>池田評価人</p>	<p>5,000円ですと、想定している使用量といたしましては1日、アウターといっても紙おむつのパンツ自体が1枚と仮定して、中のパッドが4枚、朝、昼、晩、夜という形で4枚利用した場合、アウターが1枚、パッドが4枚という形で、これが30日間分になりますと、高齢者いきがい課で提供している商品の一覧の中で価格が安いもので計算すると、月額6,000円あたりが必要となります。</p>
<p>池田評価人</p>	<p>この事業そのものは、紙おむつ給付、具体的に紙おむつと特化していますが、高齢者であったり、介護であったりサービスが必要になるものが幾つかありますが、類似のサービスはほかにもあるのでしょうか。類似の現物を給付しているけれども、事業名は別だというのはあるのでしょうか。それとも、この事業だけという理解でよろしいのでしょうか。</p>
<p>高齢者いきがい課担当</p>	<p>現在、提供しているのは紙パンツということで、テープ式とはく型のタイプのもので尿取りパッドという形になっております。紙おむつを使用される際に使用のおしりふきなどに関しては、川越市で行っている高齢者事業の中では恐らくないかと思えます。</p>
<p>池田評価人</p>	<p>似たような質問ですが、紙おむつがあったほうが助かるという方々は、例えばほかの町では、若年性認知症の方などのケースもあります。事業は別ですが、例えばもう少し年齢が幅広くとか、あるいは対象の状況を幅広く捉えているケースもあるようですが、川越市の場合には、サービス内容は似ているけれども、対象は違うというケースはありますか。紙おむつということに特化してもらっても結構ですが。</p>
<p>高齢者いきがい課担当</p>	<p>紙おむつの給付につきましては、1から3の一定の要件の中に、認知症の方もいると思えます。その中でフォローができていますと考えております。他課の確認が取れていないので、具体的には申し上げられませんが、認知症やほかの分野での紙おむつ給付に関しては、今、確認ができておりません。</p>
<p>池田評価人</p>	<p>他課というのは、高齢者いきがい課の管轄外ですから、比較的若い世代で似たような状況にある方は、はっきり分からないということでしょうか。</p>

高齢者いきがい課担当	障害認定の方に関しては、障害者福祉課で対応しております。同じ要綱で、高齢者いきがい課と障害者福祉課が運営しております。
池田評価人	つまり、この事業の中で、若い方でも対象となっているケースがあるということですか。
高齢者いきがい課担当	あります。
池田評価人	現物給付 5,000 円までと書かれていますが、給付されるかされないかで、例えば負担率が 9 割負担とか、消費量というか給付量に応じて負担率が変わるような制度にはなっていないということでしょうか。
高齢者いきがい課担当	給付率によって負担が変わるという制度ではないです。
高齢者いきがい課長	上限額が 5,000 円となっていて、5,000 円の範囲内で自由に枚数をご自分で購入できるという仕組みです。ただし、5,000 円を超えてしまう場合は、その部分は自己負担という形になっております。
池田評価人	複数の業者さんの中から選べる仕組みになっているというお話を伺いました。これは、大きさや、枚数が似たような状態ですが、業者によって値段が違っていたりするのですか。また、取り扱っている商品も違うのですか。
高齢者いきがい課担当	取り扱っている商品につきましては業者ごとに異なります。値段につきましては、最低価格をこちらで見積りを取らせていただいて決定しておりますので、値段についてはどの商品も一律で同じ値段となっております。
池田評価人	川越市にはとても重要なテーマだと私は考えておりますが、この事業は高齢者の住み心地をよくするということだと思っておりますが、しかしそれが、共通認識というか、どの程度まで高齢者のためだったら出してもいいかというところが、どうしてもグレーになりがちだと思います。ですから、何か基準なり方向性がないとちょっと議論がしづらいところがあると思います。高齢者いきがい課としては、必要なところはあるが、かなり刈り込まなければならない前提というか、方向性はあるのでしょうか。
高齢者いきがい課長	この制度、おむつに関しては、当課としては皆様から大変好評を頂いている事業というふうに認識は持っております。財政面が許すのであれば、高齢者が増えるのであれば、対応する事業費も増えていきますけれども、これはやむを得ないものとして継続していくこともあり得るのではないかと

	<p>という議論はございました。ただし、5年後には1.3倍、10年後には1.6倍になってしまいます。現在、約1億円ですから、10年後には1億6,000万円の負担ということに、現行制度のままですとなくなってしまいます。高齢者に対してなるべく現状を維持したサービスを提供していくという考えも、一方ではありますけれども、例えばですけれども、現在の1億円をキープしていくという考え方もあるかと思えます。また、1億円よりもさらに下げていくという考え方もあると思えますけれども、現状の1億円を超えていかないということが、一つの目安としてはあると考えています。</p> <p>その際に考えられる手法といたしましては、上限額の5,000円を4,000円に下げていく方法が1つ。それから利用者の皆様の所得によって制度の利用をできる、できないを判断していく。つまり、所得制限を設けていく方法が1つ。それから、自己負担を、例えば5,000円使った方については1割の500円を負担していただく、3,000円を使った方は1割の300円を負担していただく。こういった自己負担を求めていく方法が1つあるかというふうに考えております。</p>
岡部評価人	<p>平成9年から始まった事業ですが、現金を補助するのではなく、なぜおむつを給付することになったのか、お分かりになればお願いいたします。</p>
高齢者いきがい課担当	<p>紙おむつの現物支給という形ですと、今現在の事業内容としましては、事業者の方が直接対象者のご自宅に配達するという方法を取っております。その際に、事業者の方が対象者の方の相談に乗れる、紙おむつのつけ方とか、パッケージもパンツタイプで合っているのかどうか相談できる点につきましてはメリットがあります。また、買物等によって、移動等の負担等がありますので、配送を通じることによって、ご家族様、ご本人様の負担というのが軽減されるということがございます。そのため、紙おむつの現物支給、現金ではなく現物支給という形を取らせていただいております。</p>
岡部評価人	<p>想定している利用としては大体月6,000円ぐらいというお話があったかと思えます。8割以上の方が4,000円以上利用されているということで、1割、2割ぐらいの方が利用していないということだと思えますが、その方々はどのような形で4,000円までいかに利用されているのか、おむつの枚数が単純に少ないのか、もしお分かりになればお願いします。</p>
高齢者いきがい課担当	<p>対象者の方のお体の状況もありますが、要介護1から3の一定の要件の方に関しましては、必要な枚数というのが少ない形になると思えます。4から5の方に関しましては、紙おむつを使う量が多い方がおりますので、4,000円台の方につきましては、恐らく要介護認定が低い、お体の状況が軽</p>

事務局	<p>度な方という認識をしております。</p> <p>ここで換気のための5分間休憩を取らせていただきたいと思います。</p> <p style="text-align: center;">－ 休 憩 －</p>
真下評価人	<p>それでは引き続き、質疑応答を続けたいと思います。</p> <p>何か質問等がありましたら、挙手をしていただくようお願いします。</p>
久保木評価人	<p>補足資料3の事業の実績のところに、A社からM社までの業者と委託料が載っていますが、業者と市の間でお金のやり取りはあるのでしょうか。</p>
高齢者いきがい課担当	<p>業者とは市がやり取りをしまして、5,000円分を対象者の方が使った場合に、5,000円分の範囲まで公費で負担という形になりますので、月額で高齢者いきがい課に請求があり、それに対して支払いをしております。</p>
久保木評価人	<p>実費の支払いだけで、特に委託料として業者に払っているわけではないということですね。</p>
高齢者いきがい課担当	<p>そうです。</p>
久保木評価人	<p>業者が何社かありますけれども、増えても減っても市の財政には特に関係はないということでしょうか。</p>
高齢者いきがい課担当	<p>利用者のほうで選べる選択肢が増えるという形になりますので、市の財政には関係ないということになります。</p>
関根評価人	<p>先ほどの話とまた同じで申し訳ないのですが、9万4,000人いる中の1,887人ということで、本当はもっといるという感じがどうしてもしてならないのですが、その場合、広報紙を見るとかホームページを見ることはしない方が困っている方じゃないかと思います。ケアマネジャーなどの方に入っている方は良いですが、そうではなく、家族の中でそういうものを見る機会もない方々も多分にいると思うので、民生委員さんなどつながりを持って、連携を取りながら、そういう方々を探し出すということも大事なことだと思います。</p> <p>そのような中で、費用が増えていくようであれば、所得制限や、1億</p>

<p>高齢者いきがい課担当</p>	<p>円という限度額を設けた中で、皆さんが平等に、多少金額が減っても行き渡るような平等性があつたほうが良いと思います。そうしなければ、この1,887人の方々だけが年間6万円の給付を頂いていることになってしまうので、それは平等ではない気がしました。</p> <p>民生委員さんの方に対して、在宅サービス全般になりますが、説明会等を行っております。また、民生委員さんに加えて、老人クラブという川越市老人クラブ連合会、高齢者の方の集まりに対しての講義という形ですが、事業の説明等は周知として行っております。</p>
<p>小谷野評価人</p>	<p>先ほど財源が約1億円で、今後超えていかないようにするため、上限を下げるとか、所得によって利用を制限したり、自己負担を求めたりするという意見がありましたけれども、この事業は、皆様から評価を頂いている認識があるとも話がありました。</p> <p>その中で、中長期プランになると思いますけれども、今後財源を増やしていくようなプランというのは、今現在検討というのはされているのでしょうか。</p>
<p>高齢者いきがい課担当</p>	<p>今後の持続可能な事業としまして、高齢者いきがい課で考えている案の中の話ですが、先ほど10年後の令和11年につきましては、1.6倍に膨らむという中で、所得制限や本人非課税等、今現在の対象者に対する割合を把握しております。その中のご説明になりますが、本人非課税の方が今現在7割いる中で、本人非課税の方だけの対象という設定をした場合は、恐らく10年後になりますと1億円を少し超えてしまう想定をしております。本人非課税以外の世帯非課税や様々な方法がありますが、その中で約1億円を持続可能な金額として考えていく上では、本人非課税等につきましても今後検討は必要と考えております。</p>
<p>高齢者いきがい課長</p>	<p>少し具体的な目安を申し上げます。</p> <p>本人非課税にした場合、約3割の減が見込めます。次に、世帯非課税にした場合は6割減を見込むことができます。</p> <p>現在上限額は5,000円ですけれども、4,000円にした場合は2割の減を見込めます。また、自己負担を仮に1割、5,000円使った場合500円の自己負担を求めるという仕組みを導入した場合、1割の減が見込めます。</p> <p>したがって、一番効果があるのは世帯の非課税という方法を採用した場合は6割減ですから一番効果が大きく、10年後も1億円を下回る7,000万円ほどで事業が行える試算をしております。</p>
<p>小谷野評価人</p>	<p>所得制限などがある中で、有効的に活用していくべきだと思いますので、</p>

	<p>今後そういったプランがでてくれば検討していただきたいと思いますと思います。</p>
<p>関根評価人</p>	<p>業者の方がおむつを配達されるのですか。それとも宅配便で配達するのでしょうか。</p>
<p>高齢者いきがい課担当</p>	<p>事業者の方が配達しております。</p>
<p>関根評価人</p>	<p>確かにそれだとお顔を見ながら、安否確認もできるということなので良いことだと思いました。</p>
<p>池田評価人</p>	<p>高齢者の割合が増えれば、何もしなければ基本的には費用は圧迫されてしまいます。また、意見にもあったように、これまで漏れていたかもしれない人もできればフォローするのであれば、この制度だけではないでしょうから、やはりほかの事業ですとか全体的に予算が増していきます。サービスを受ける方が増えてくる要因は多くあるため、何か考えなくてはいけないと思いました。同じサービスをより安価にしていくという工夫というか余地というか、人数が増えたとしても、同時に効率を下げずに費用を下げるような効率的な運営の仕方、これは業者さんとの関係になるのか、制度設計そのものなのか、その辺のところの説明というかアイデアが何かあれば教えてください。</p>
<p>高齢者いきがい課担当</p>	<p>委託業者をもう少し増やすことで、市場の最低価格が下がっていく、競争が働くことによって下がっていくということが考えられますが、現在の商品の価格が市場の価格と比較しますと、ほぼ同額になっております。その点からもアイデアとしましては模索していく必要があると思います。</p>
<p>池田評価人</p>	<p>例えば、1つの業者が複数回行うというようなことを減らすことや、事業の統廃合によって、サービスの水準はそれほど変わらないが、コストとしては削減になるというような、市側のできる可能性はありそうだという直感のもとで伺いました。</p> <p>つまり、課税世帯を制限するというのも選択肢だということは分かります。ただ、一番最初にお話ししたとおり、川越市が相対的にお年寄りにも優しいということをもし強調するのであれば、今の立ち位置はほぼ真ん中というか、いろいろな数字を見て、お年寄りをすごくいい環境にするために資金を投入している、やや中間にいると感じておりました。そこから制限を加えていくと、そこから少しずれていくことが否めないということがあります。そうなってくると、課税世帯を制限するというをやったとしても、同時にこういう面ではサービスの効率を上げるような、これまで</p>

	<p>不十分だったところに十分手を出します。一方で我慢していただくところもありますという、進め方でいかないと、せっかく築いてきた高齢者に優しいまちのイメージがやや微妙になってしまう可能性があるというふうに感じました。</p>
真下評価人	<p>事業者がAからMまでありますけれども、まずA、B、C、Dがバーになっています。これは撤退したということでしょうか。ちなみにですけれども、撤退という業者が幾つかありますけれども、その撤退の理由というのが分かれば教えてください。</p>
高齢者いきがい課担当	<p>撤退の理由につきましては、具体的には分からないのですが、採算が合わないという部分もございます。また、以前の紙おむつ事業の運営につきましては、A地区には1つの事業者、B地区には1つの事業者という形で地区ごとに事業者の割り振りがございましたが、制度改正に伴い、撤退してしまったという可能性もあると思います。</p>
真下評価人	<p>これから1.6倍に増えるのであれば、確実に安定的な収入が得られる事業であるのに、なぜ撤退したのかと思ったため、少し気になりました。</p> <p>他市との比較の中で、中核市の比較が出ておりますけれども、8,000円台で所得制限をかけないというのは、どんな自治体か具体名が分かればお伺いしたいです。</p>
高齢者いきがい課担当	<p>高崎市となっております。</p>
真下評価人	<p>所得制限をかけていないというのは、中核市レベルでは本当に少ないです。埼玉県内では多数派とは言い難いけれども、それほど珍しくありません。その中で8,000円で行っているというところがどういう傾向を持っているかと考えました。</p> <p>もう既にお答えいただいておりますが、今後10年で1.6倍になるということは、単純計算で10年後にこの費用を多くて0.6倍ぐらいにしなければいけないという計算になります。もちろん、これは財政的なものですので、簡単にそうはいかないかもしれませんが、そうした場合、給付金の減額を行う場合、現行5,000円から3,000円にしなければなりません。先ほど所得制限のお話も出てきましたけれども、世帯非課税で見た場合、6割減になるため、一番効果があるという話でしたけれども、現時点では、ここで表明するわけにはいかないのは分かっておりますけれども、どちらのほうが好きかと考えておりますか。つまり、先ほど関根評価人からも少し話がありましたけれども、平等に満遍なく行ったほうが正しいのか、それとも本当に必要なところに集中して投資するほうが正しいのか、現時点で、</p>

<p>高齢者いきがい課長</p>	<p>これは非常に答えづらいとは思いますが、所管課としてはどの方向性で今検討しようとしているのか、差し支えなければ教えてください。</p> <p>この制度で最も大事なことは、真にこの制度を必要としている方にサービスが提供されることだと思っています。真に必要とされる方は、介護度が重い方、例えば介護度が4、5の方、あるいは所得の面から言うと、所得が低くて非課税になっている方。こういったことを併せて考えていくこともできるのかなと思っています。ですから、一番、これは併せた対策になりますけれども、要介護度4、5の方に絞り、さらに非課税の方に絞れば、事業費の面ではかなりの抑制ができます。</p> <p>ご質問の趣旨のこういった視点に基づくかということでは、本当にこのサービスを必要としている人の絞り込みをしていくような考え方を持っているところでございます。</p> <p>③評価結果発表</p>
<p>真下評価人</p>	<p>それでは、各評価人から、まずそれぞれの点数を仰っていただいた上で、ご意見をいただければと思います。</p>
<p>小谷野評価人</p>	<p>時代適合性4点、行政の関与の妥当性4点、効率性3点、実効性4点、方針妥当性4点、合計19点です。</p> <p>今回、総合計画等も含めて見させていただきまして、行政として行う介護・擁護の支援の推進という観点では、この事業は行政しか関われない、必要であるという判断をしております。また、高齢者の割合が増えてくるということも考えられるため、社会的ニーズにも適合していると思っております。</p> <p>効率性については、最小の経費で最大の効果を上げているかということに関しては3点としました。費用面で効果が上げられているのか、判断しにくいところがあったと感じたためです。</p> <p>率直な思いとしては、もう少しPRができればより良い事業になるのかなと思いますし、特定の人だけが恩恵を受けないような形にしていいただければなということで、このような採点をしました。</p>
<p>久保木評価人</p>	<p>時代適合性5点、行政の関与の妥当性5点、効率性3点、実効性3点、方針妥当性5点、合計21点です。</p> <p>持続していかないと、この制度は意味がないと思います。ある日突然おむつが届かなくなるということは、一番あってはならないことだと思っていますので、ぜひ10年後も続く制度にするために、真に必要な人に届けら</p>

<p>岡部評価人</p>	<p>れるということを念頭に、今後も継続事業として頑張っていたいただきたいと思います。</p> <p>時代適合性4点、行政の関与の妥当性5点、効率性4点、実効性4点、方針妥当性3点、合計20点です。</p> <p>やはり、本当に必要な人に必要なものが届くということが一番だと思いますので、これまでは一律という形であったかもしれませんが、そういうことではないと思いました。また、先ほど現物支給についてのメリットを聞いて、おむつを届けるだけではないこともすごく大事なことだと思いました。ぜひこの事業を継続して行えればと感じました。</p>
<p>関根評価人</p>	<p>時代適合性5点、行政の関与の妥当性5点、効率性4点、実効性4点、方針妥当性4点、合計22点です。</p> <p>困っている方々が、おむつの給付を受けられるといいなと思います。また、自分がお世話にならないよう心がけることも大事であると思いました。</p>
<p>池田評価人</p>	<p>時代適合性5点、行政の関与の妥当性4点、効率性4点、実効性4点、方針妥当性5点、合計22点です。</p> <p>高齢者が増えていく時代背景を考えると、しっかりとした手を打ち続けることの必要性は間違いないと思っています。</p> <p>市が関与をするのも妥当といえば妥当ですが、民間とも協力し合いながらという当然の立ち位置もあるのかなということで、その協力の仕方はこれから模索されていくと期待をしています。</p> <p>先ほど費用の話をしましたけれども、費用は人数掛ける今の単価になりますが、単価の部分进行何か工夫するために模索をするという視点は、当然のことながら必要になってきます。最初に少し申し上げましたが、紙おむつの事業に特化した議論になっていますが、紙おむつは減るけれども、ほかのところを充実させることによって、結果的に、高齢者に対するサービスを確保するという発想というか、仕組みというのが少しずつ必要になってくると思います。</p>
<p>真下評価人</p>	<p>時代適合性5点、行政の関与の妥当性4点、効率性4点、実効性4点、方針妥当性4点、合計21点です。</p> <p>高齢社会ですので、こういった事業が必要であることはよく分かりますが、行政がどの程度まで関与するのかという点について、やはり民間業者との連携というのも今後必要になってくるということで、少しきつめですが、4点にしました。</p> <p>効率性、実効性については先ほど所管課のほうから非常に好評であると</p>

	<p> いうようなお話がございましたけれども、それによって、対象となる高齢者の費用面が向上しているのかという点についても言及があればよかったかと思いました。 </p> <p> 方針妥当性を4点にしたのは、評価シートの中では単純に、制度設計について検討すると述べられていたということが、一つの原因になっています。今後、本当にどうするのか。最後のほうでいろいろとお話しいただきましたけれども、そういったことも含めて、限られた財政の中で何をするのかということをもっと明示してもよかったと思います。 </p> <p> 私の雑感ですけれども、こういった事業については、どうしても今後、確実にお金がかかる事業であるので、所管課としてどのようにすればこれを最小限に抑えることができるのか、既に検討しているということについては、私は評価したいと思います。 </p> <p> また最後のほうで、制度にどのような問題があるのか、理念は何なのかということについて、きちんと述べてくださいました。これについても、私は非常に高く評価しております。こういった主眼があるのであれば、サービスを受ける市民の方々も安心できると思いましたので、その点についても、非常に高く評価しておきたいと思います。 </p>
真下評価人	<p> 合計点は125点となりました。判定結果はA、評価としては、事業の在り方の妥当性は極めて高いという判定となりました。ぜひご参考にしていただき、今後の事業の展開にご活用いただければと思います。 </p>
事務局	<p> ありがとうございました。それではこれもちまして、令和2年度川越市事務事業外部評価を終了いたします。 </p> <p> 外部評価人の皆様、長時間ありがとうございました。 </p> <p> 4 閉 会 </p> <p style="text-align: right;">以 上</p>